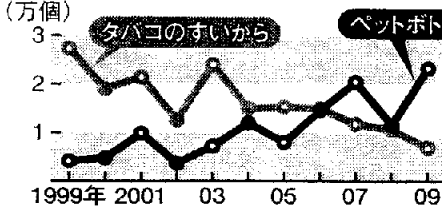


NPO法人「荒川クリーン
 エイド・フォーラム」(佐藤
 正兵代表理事)は、一九九四
 年から荒川流域で実施してき
 たごみ拾い活動の内容をまと
 めた。ごみは市民ボランティア
 アらが種類別に收拾してきた
 ところ、ここ数年でタバコの
 吸い殻が激減し、反対にペッ
 トボトルが増加していること
 が分かった。今後はごみの種
 類の変化に注目しながら、市
 民団体、企業、学校などが連
 携した環境保護活動のネット
 ワークづくりを進める。
 (土田修)

ペットボトル、タバコのすいからの個数変化



NPO法人が荒川でごみ拾い

荒川の河川敷でごみ拾いをするボ
 ランティア参加者ら＝東京都墨田区で



ペットボトルが増加

荒川流域でのごみ拾

い活動は毎年春と秋を

中心に実施。埼玉県秩

父市から東京都江戸川

区の葛西海浜公園まで

の流域計七十、百カ所

で市民団体・自治体・小

中高校・企業などがボ

ランティア参加した。

〇四年はペットボトル

累計参加者数は十一万

七千人に上っている。

環境への悪影響深刻化

千個だった。

また、昨年は注射器
 が急増しているほか、
 プラスチックの破片類
 も増えており、河川環
 境への悪影響が深刻化
 していることも分かっ
 た。同フォーラムは十
 六年にわたる活動が認
 められ、二〇〇九年に
 財団法人「日本河川協
 会」の「河川功労者
 賞」を受賞している。

二〇一〇年度はペッ
 トボトルに焦点を当て
 た調査を実施する一
 方、メーカーや業界に
 働きかけてペットボト
 ルのごみ問題に取り組
 むことで、身近な環境
 を守る市民活動のネット
 ワークを広げていく
 ことにしている。